A19 ソロモン諸島国におけるマラリアリスクマップ作成に向けて

○二瓶直子¹, 橋田良彦², 川端真人³, 小林睦生¹, Bacotee, B.⁴, Leafasia, J.⁴, 石井明⁵ (¹国立感染研昆虫医科学, ²日本大学大学院, ³神戸大医学研究国際交流センター, ⁴Solomon Islands Medical Training and Research Institute, ⁵自治医大医動物)

Preparation of malaria risk map on the Solomon Islands

Nihei, N., Hashida, Y., Kawabata, M., Kobayashi, M., Bacotee, B., Leafasia, J., Ishii, A.

マラリア浸淫地のソロモンガダルカナル島は離島で、低湿地、急峻な地形、高温多雨などの自然条件や、道路・車などインフラの不備、民族紛争やそれに伴う社会・経済的不安などによって、近年現地調査の可能な地域はごく狭い範囲に限られている。このような環境下で、迅速、安全、安価にマラリア浸淫状況を把握する方法を開発するためにはGIS/RSの手法を導入することが効果的であると考えられる。我々はガダルカナル島で景観の異なる4地域の小学校を選び、児童のマラリア検査を実施し、マラリア感染率を調べ、集落別に図化した。それらを基に景観要因として重要な地形別に見たマラリア陽性率を算出した。GIS解析ソフトArcGISを用いて、既往の地形図をパソコンに入力し座標を与え、地形別マラリア陽性率からマラリアリスクマップを作成した。同様に土壌型、土地利用、森林についても検討し、GISやRSの手法を用いてガダルカナル島全域およびその周辺の島嶼への適用を検討している。

A20 東北地方におけるヒトスジシマカの分布調査：山形市の事例を中心に

○小林睦生, 二瓶直子, 栗原毅 (国立感染症研究所昆虫医科学部)

Distribution of *Aedes albopictus* in Tohoku District centering around cases of Yamagata City

Kobayashi, M., Nihei, N., Kurihara, T.

2001年の東北地方でのヒトスジシマカの分布調査では、横手、水沢、気仙沼、新庄で新たに分布が確認され、1998-2000年の調査における同蚊の分布北限は、内陸部の数都市を除き明らかに北側へ移動した。今年の調査では、盛岡、水沢江刺、花巻、北上、宮古、釜石、八戸、弘前、青森等で調査を行ったが、ヒトスジシマカの分布は確認されなかった。なお、上記の未確認の都市の内、宮古は1997年以降明らかに年平均気温が上昇しており、今後、定着の可能性が高い。山形市では2000年に初めてヒトスジシマカの分布が確認されたが、今年一般市民から刺咬被害の苦情があったことから再調査を行った。その結果、市内全域にヒトスジシマカの分布が確認された。なお、2000年に同市に優先して分布していたヤマトヤブカは少数しか確認されなかった。